

Captain Nigel's Mega Choice #13

英国海軍からチャーターヨットまで様々な船を渡り歩き、これまで30万海里以上にもなる航海経験をもつキャプテン・ナイジェル。現在はマイアミに居を構え、世界のトップセレブリティを相手にチャーターやコンサルティングを手がける彼が、独自のネットワークでつながるメガヨットの世界を紹介する。壮大かつ華麗な、メガヨットワールドをご堪能あれ。

text: Captain Nigel Beatty
photos: AQUOS YACHTS
<http://www.aquosyachts.com>

AQUOS 148 “Big Fish”



このヨットを紹介するにあたって、私は少々エキサイトしている。ビルダーはニュージーランドからだが、オーナーは私と同じくイギリス出身、彼の名はリチャード・ビーティー。姓もさることながら同じイギリス出身……とは言っても全く親戚関係にはない。残念！

現在香港に住むリチャード・ビーティーは、このヨットの前に85フィートのアジムを所有していた。次は最低でも40メートル級のヨットへのステップアップを希望していたが、好みであるモダンでユニークなものに出会えなかったため、デザイナーとビルダーを使って自分好みのドリームヨットを造船することにした。

選ばれたビルダーはニュージーランドはオークランドが拠点の

マクムレン・アンド・ウィング。長年にわたりクオリティの高い素晴らしいヨットを送り出してきたことで知られている。

この船の何が素晴らしいか？ まず最初に、私好みの、世界中どこへでもクルーズができる機能と、フィッシングやダイビングが楽しめること。そして、これまでに類を見ない革新的なデザインだ。

例えば、このヨットにはチークデッキというものが見あたらない。それ自体はさほどユニークではない。しかし、チークの代わりに花崗岩が使用されているヨットはこれが初めてだろう！ その効果は素晴らしく、気温が高いフォートローダーゲールの真夏日に裸足でこのデッキを歩いても、逆に涼しく快適な気分させてくれる。暑



すぎて裸足で歩くことは困難であろうチークデッキとは大違いだ。

オーナーのピーティー氏によると、この花崗岩で覆われたデッキはクルーにとっても非常に助かるそうで、「メンテナンスの必要性を最小限に抑えることができ、裸足でも気持ちいい。女性にとってはハイヒールで歩いてもデッキにダメージがつかないのがパーフェクトだ!」。

インテリアもまた印象的だ。中央にある吹き抜けの辺りには巨大なLEDスクリーン20面が壁一面に設置され、写真や映画、ナビゲーションディスプレイなど様々なものを映し出すことができる。私が案内された時には、このヨットの南太平洋での処女航海の様子がクルーによって映し出されていた。この様な設備がヨット上にあるのはこれまでに見たことがなく、ただただ驚愕するばかりだ。

このヨットはかなり長い距離を航海することが可能のように設計されており、その航海可能距離は9,000海里以上だ。専任のシェフの説明によると、冷蔵庫と冷凍庫の数が合計11台もあるそうだ。彼曰く「このヨットはどこへでも航海することができ、その間充分に賄えるようになっている」。

このビッグ・フィッシュ号の26フィート



のテNDERはこれまたカスタムデザインで、パウデッキに置かれている。このテNDERはトリプル・リップルといい、フィッシングとダイビング用に特別にデザインされているだけでなく、ゲストの陸地への足として水上タクシーの役目を果たす機能もしっかりと持っている。

オーナーズ・スイートはブリッジデッキに位置し、壮大な眺めを堪能することができる。ピーティー氏によると、「私が寝ている間に夜通し航海することも時々あるが、起きてブラインドを上げた時に目の当たりにする眺めにはただただ圧倒されるばかりだ! 処女航海で最初に迎えた朝はタヒチ沖で投錨中だった。起きて、窓から270度に至る眺めはそれこそ息を呑むばかりだった」。これこそが、私が信じる「ヨット航海」の全てなのだ!

オーナーのピーティー氏は自分のカスタムヨットを造り出すだけに留まらず、なんと、この斬新なコンセプトを基にしたヨット会社を展開した。それが、アクオス・ヨットの始まりだ。そして現在、ビッグ・フィッシュ号のビルダーでもあるマクムレン・アンド・ウイングによってビッグ・フィッシュ号の姉妹号にあたるスターフィッシュ号が造船されている。これもま

たデザインが非常に斬新だ。アクオス・ヨットは今ではしっかりと商標となり、自己のスタイル、自己のクオリティとなり、しっかりと己の道突き進み航海している。

ビッグ・フィッシュ号はこの冬に南極圏とアマゾンへ向けて航海し、大西洋を横断して北ヨーロッパロシアと北東航路を抜ける予定だ。ピーティー氏は言う「この航路を行く最初のヨットとなることを目指している」。

そして、……ということは、夏には北太平洋を抜ける予定になるわけだが、その際には是非日本へ立ち寄ってもらおうよう、私はオーナー氏と話をしている。実現すれば、もしかするとあなたの近くのマリナーにこのビッグ・フィッシュ号が現れるかもしれない。乞うご期待! P.B.



SPECIFICATIONS . . . AQUOS 148 "Big Fish"

全長 45.00m (147' 7")
 全幅 9.00m (29' 6")
 重量 498 ton
 燃料タンク容量 92,000L
 清水タンク容量 11,400L
 エンジン 2 x Caterpillar 3508B DI-TA / 783 kw
 発電機 2 x Kilopak 125 kilowatt
 最高速度 16 knots.
 ゲスト 10
 クルー 10
 デザイン Greg C Marshall Naval Architects
 ビルダー McMullen and Wing

Captain Nigel Beatty

Profile ナイジェル・ビーティー: 1969年、英国ベッドフォード生まれ。高校卒業後、欧州放浪の旅に出る。その後、英国海軍に入隊。航海術や操船術などを学び、海軍ヘリコプターコントロール専門の管制官になる。5年後、バハマでスキューバダイビングのポートキャプテンとなるべく英国海軍を退役。1997年にヨット界に飛び込み、ヨットキャプテンとなる。英国MCA3000トンのキャプテンライセンスを所持。これまでにメガヨットのキャプテンとして、米国東海岸、バハマ、タークス・アンド・ケイコス、カリブ海、日本、中南米、地中海、インド洋、ペルシャ湾を航海し、航海経歴は30万海里以上におよぶ。現在、ヨットセールス、チャーター、コンサルティング、マリナーグッズ販売を手がけるスーパーヨット・ロジスティクスを日本人妻と運営。プロジェクトマネージャー、テクニカルマネージャー、リフィットマネージャーとして数多くの新艇プロジェクトを手がける。2008年、新人メガヨットキャプテンのインストラクターに就任。2009年には新キャプテン最終試験官に就任し、後輩キャプテンとなる生徒をビシビシと厳しく指導している。スコアはイマイチだが犬のゴルフ好きで、2002年のワールド・キャプテン・ゴルフ・トーナメントでは栄誉ある「Wanker of the Year」を受賞。日本語を鋭意勉強中。日本語力は、まともな焼酎を注文したり、間違えずに電車に乗るくらいに上達した。

